和歌山県男女共同参画センター
センターニュース

No.82
2023.10

りぃぶる

表紙デザイン作者：浦谷真夕（まゆ）さん（イラストレーター、和歌山県有田市出身）

今号の注目記事

りぃぶる★アイ　男女共同参画週間特別公開セミナー　白井文さん
特集「意思決定の場に 多様な声を！！」
講座レポート

センターニュースりぃぶるはスマートフォンアプリ、Uni-Voice（ユニボイス）により文字情報を提供しています。
アプリをダウンロードのうえ、ご利用ください。

りぃぶる★アイ

男女共同参画週間 特別公開セミナー

和歌山の未来に 女性の力を活かす

～市長を二期務めた経験から～

【講師】

白井（しらい） 文（あや） さん

三洋化成工業株式会社社外取締役
ブラザー工業株式会社社外取締役
東洋アルミニウム株式会社社外取締役
株式会社ロイヤルホテル社外取締役
元尼崎市長

令和5年6月3日（土）　和歌山ビッグ愛1階大ホール

講師の白井さんは、明るくパワフルで、尼崎市議会議員に立候補したきっかけや予期せぬ尼崎市長就任を含め、女性の力を政治に活かす重要性やそのための方策などをこれまでのご経験を踏まえ、誠実かつユーモアたっぷりに話され、参加者は終始お話に惹きこまれました。

大学、企業、政治家の不正・不祥事やパワハラ等、今日本で起きていることの大きな原因の一つは、意思決定の場でのダイバーシティ（多様性）の欠如と、多くの企業が男性中心に考えてきた結果であると指摘され、その改善策として、ダイバーシティ・エクイティ※や多様性を受容し、それぞれの「その人らしさ」を活かすこと、また、それを阻む「普通は○○だ」という“アンコンシャス・バイアス”（無意識の思い込み）が誰にでもあることを認識することが大事だと説明されました。“違い”で差別や区別をするのではなく“違い”を活かすことが必要で、会社も、“健常で仕事に100%のエネルギーを注げる男性”から、性別、年齢、国籍、障害、育児や介護等で制約を伴う社員を含む“多様な人材”が活躍できる体制へシフトしていかねばならないと語られました。

尼崎市ならではのエピソードとして、市内の男子小学生がテレビに映った他市の男性市長を見て、母親に「市長って男の人でもなれるの？」ときいた話を紹介されました。尼崎市長は、白井さんと後継者の稲村和美さんの２人あわせて20年間女性だったので、その男の子は市長になれるのは女性だけだと思い込んでいたという笑い話でした。未来ある子供たちに多様性のあるロールモデルを示すことが重要で、それが生き方や選択肢を広げることに通じるのだと話されました。

審議会等への女性の登用促進の取組みについてのエピソードとして、ある市職員が「女性ということより、適材適所の人選が大事ではないか」と異論を唱えた際、白井さんは「最初は誰でも新人であり未熟だったが、様々な経験を経て適材になる。女性にはその機会がなかったが、女性の人材を育成するのも役所の仕事」と諭し、その結果、女性の委員数が増えたと紹介されました。

その他、改善策として、審議会等の公募枠を増やす、あて職をやめる、ひとりにつき兼任は３つの委員会までにするなど具体的なルール作りをあげられました。

自分自身の気づきとして、『誰と出会い、何を経験し、何を感じ学ぶのか』『自分が経験したことを、いかに社会に返していくのか。次世代につないでいくのか』が重要だと教えてくださいました。

物事は、頼まれたり頼んだりすることから始まるとし、女性議員候補もやる気があり、力がある人に頼んでみることから始まると語られました。

最後に、今年度の男女共同参画週間のキャッチフレーズ『無くそう思い込み　守ろう個性　みんなでつくる、みんなの未来。』を引用され、「誰もが無意識の偏見を持つことを自覚し他の人の話をよく聴くことを心がけてみてはどうか」と語りかけるとともに、自らの思い込みに気づき、少しでも多くの人がいきいきと生きて欲しいと結ばれました。

※エクイティ（Equity 公平性）：すべての人が同じ場所からスタートするわけではない。公平性とは、その不平等なスタート地点を認識し、不均衡を是正し、対処することを約束することから始まる一連のプロセス。

★白井さんが大切にしている言葉★

- 「当たり前のことほど真剣に、小さなことこそ丁寧に」
- 「社会を支える人になれ」
- 「チャレンジすることに意味がある」
- 「今を楽しめ！」
- 「努力は必ず報われる（短期的に報われなくても長期的にみる）」
- 「自分自身を信じる。信じた道を諦めない」

特集　意思決定の場に 多様な声を！！

私たちは、日頃、何気なく暮らしていますが、その生活はどれも、社会保障制度や教育制度など、様々な制度や法律、ルールの下で成り立っています。そして、それらは「意思決定の場」で決められていきます。

しかし、この**「意思決定の場」に女性が少ない現状を知っていますか？**

今回は意思決定の場に女性が増えることの必要性と、女性が増えると社会がどのように変わるのかを考えていきましょう。

「世界経済フォーラム」が発表する 2023 年ジェンダー・ギャップ指数※において、日本は 146 カ国中 125 位と過去最低でした。順位が低いほど男女の格差があることを表しており、日本は先進国の中では最下位となっています。

図１は、アイスランド（１位）と日本、そして各国の平均値をグラフにしたものですが、バランスの良い菱形を描いているアイスランドに比べ、日本は三角形で政治分野の数値が低いことが見て取れます。

「国会議員の男女比」「閣僚の男女比」「最近 50 年における行政府の長の在任年数の男女比」の３項目で評価される政治分野の数値の低さが、日本のジェンダー・ギャップ指数の順位の低さにつながっています。

意思決定の場とは…

国会・県議会・市町村議会・行政委員会・審議会など、私たちの暮らしに関わる政策や条例などを決める場所のことです。

図１　ジェンダー・ギャップ指数（GGI）2023 年

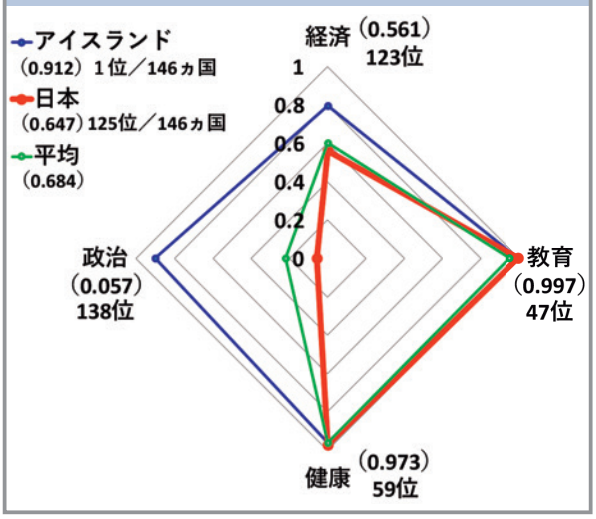


図１…内閣府 HP より作成

図２　ジェンダー・ギャップ指数（GGI）G7 主要７カ国政治分野スコア変移

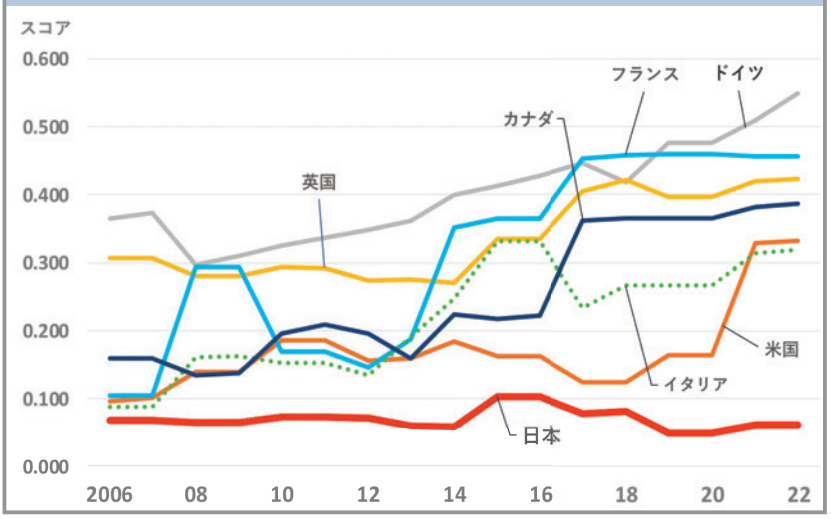


図２…世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書」より作成

※ジェンダー・ギャップ指数　スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」が毎年発表する国ごとのジェンダー平等の達成度。政治・経済・健康・教育の４つの分野で評価している。**「０」が完全不平等、「１」が完全平等**となり、スコアの数値が低いほど男女間で格差があることになる。

図２は、ジェンダー・ギャップ指数の調査が始まった 2006 年から 2022 年までのＧ７・主要７ヵ国の政治分野のスコア変動を表したグラフです。2006 年時点では、日本はイタリア・米国・フランスと大差はありませんでしたが、2022 年時点では５～７倍と大きく引き離されています。フランスやイタリアでは、法律により比例代表の候補者名簿を男女交互とするなど、性別を基準に候補者を割り当てるクオータ制を導入したことが、政治に参画する女性を増やした大きな要因といえます。

一方、日本では 2018 年に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が施行され、2021 年に改正されたものの、女性の候補者を増やすことは努力義務であり罰則がないため、大きな成果にはつながらず、2006 年からほぼ横ばいとなっています。

政治分野における男女共同参画の推進は、政治に民意をより一層反映させる観点から極めて重要です。

ここで、日本の女性議員の割合を詳しくみてみましょう。

日本の国会議員の女性の割合は、衆議院で 9.9%、参議院で 25.8%です（衆議院議員は 2022 年 7 月 8 日現在、参議院議員は 2022 年 7 月 28 日現在※）。世界と比較してみると、世界平均は下院又は一院制議会 26.4%、上院 25.7%、日本の衆議院の女性議員比率を順位にすると 164 位になります（IPU（列国議会同盟）HP より 調査対象国は 186 ヵ国（2022 年 7 月 1 日現在）2022 年 7 月 29 日閲覧※）。

2022 年末時点での地方議会における女性の割合は、県議会議員 11.8%、市区議会議員 18.1%、町村議会議員 12.2%と低比率です。また、**女性議員がいない「ゼロ議会」**が市区町村議会で 14.8%（257 議会）存在していることも忘れてはなりません。これは、都市部より町村などの人口が少ない地域に多くみられます。統一地方選挙など 2023 年 4 月までの選挙で、21 道県の 44 議会で女性が当選し、「ゼロ議会」が改善されたところがある反面、新たに「ゼロ議会」になった議会もあり、未だ 200 以上の議会に女性議員がいないのが現実です。これらの数値からも分かるように、政治に女性の声を届けるにはまだまだ女性議員が少なすぎると言えます。

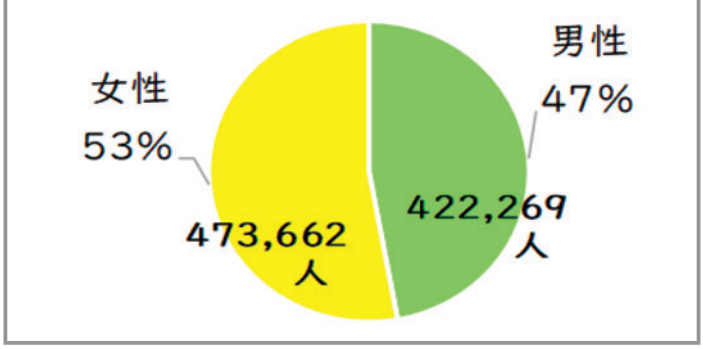
※内閣府「女性の政治参画マップ 2022」より

次に、和歌山県の議会や審議会等の女性参画状況から考えてみましょう。

令和 5 年 4 月 1 日現在の和歌山県の推計人口は、895,931 人。そのうち男性が 422,269 人、女性が 473,662 人で、県内人口の 53%を女性が占めているにも関わらず（図 3）、意思決定の場における女性の割合は非常に低いのが現状です。

和歌山県議会の女性の割合は 7.1%。また、県内の市町村議会議員・審議会・自治会・防災会議に女性が占める割合は全て半数以下です（図 4）。

図 3　和歌山県　推計人口（令和 5 年 4 月 1 日現在）

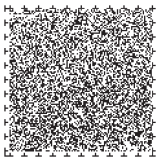


和歌山県 HP より作成

図 4　和歌山県内の女性参画状況

	市町村議会 議員に占める女性の割合		審議会 委員に占める女性の割合		自治会 自治会長に占める女性の割合		防災会議 委員に占める女性の割合	
	和歌山県の平均値	12.4%	和歌山県の平均値	25.3%	和歌山県の平均値	8.5%	和歌山県の平均値	8.7%
1 位	上富田町	25.0%	岩出市	33.0%	太地町	23.8%	田辺市	23.1%
2 位	古座川町	22.2%	みなべ町	32.2%	岩出市	16.8%	紀の川市	20.0%
3 位	和歌山市	21.6%	和歌山市	31.8%	和歌山市	11.9%	古座川町	18.2%
4 位	岩出市	21.4%	海南市	31.0%	古座川町	11.4%	上富田町	16.7%
5 位	紀の川市 九度山町 由良町	20.0% 20.0% 20.0%	古座川町	30.9%	橋本市	10.1%	和歌山市	14.6%

内閣府「市区町村女性参画状況見える化マップ」（令和 4 年 12 月 31 日現在）より作成



和歌山県内でも、女性議員が 1 人もいない「ゼロ議会」が 7 議会存在しています。これは、全国ワースト 10 です（令和 4 年 12 月 31 日現在・内閣府「全国女性の政治参画マップ」2023 年 6 月作成資料より）。このような状態では、女性の視点が政策に充分活かされているとはいえません。今後の大きな課題です。

議会や意思決定の場に女性が増えると、どう変わっていくのでしょう。

女性議員や委員が増えると、家事や育児の多くを担っている女性の視点が反映され提案される課題も多様になります。例えば、出産や子育てに関する支援策をはじめ、女性に多い非正規雇用の待遇改善策や性暴力・性被害に関する様々な法整備が期待できます。

また、近年、地域における人口減少や高齢化が進行するなかで、地方議会の選挙では、議員の定員を超える立候補者がなく、無投票で議員が決まることが起きています。2023 年 4 月 18 日に告示された 373 の町村議会議員の選挙では、123 の町村で定員割れとなり無投票となりました。無投票で当選した人はあわせて 1,250 人で、定員全体の 30.3%を占めています。女性の政治参画の拡大は、議員のなり手不足の解消につながるかもしれません。

女性の政治参画への“道のり”には、こんなことも！？

議会議員は選挙により選ばれています。でも、いざ、女性が立候補するとなると、その道を阻む壁は男性より高そうです。具体的に次のようなことが課題と考えられています。

【立候補前】

- ■立候補するときの家族の理解
- ■選挙活動をするための経済的問題

【立候補後】

- ■子育て、介護、家事の担い手問題
- ■支援者の有無
- ■セクシュアル・ハラスメントやジェンダー・ハラスメント等の被害

【議員になってから】

- ■子供の一時保育場や授乳コーナー等の有無
- ■セクシュアル・ハラスメントやジェンダー・ハラスメント等の被害
- ■議員としてのワーク・ライフ・バランス

女性の政治参画を進めるには、立候補者の力だけでなく、家族や支援者はもちろん、地域や社会全体が意識を変えていく必要があります。また、議会のあり方、議会施設内への授乳コーナーやオムツ替えコーナーなどの設置、そして議員の働き方の見直しによって、誰もが参画しやすくなるのではないでしょうか。

私たちにできること　参画の方法はいろいろ…

- 自分たちの街の政策に関心をもつ
- 議会を傍聴に行く
- 選挙に行く
- 行政などからのパブリック・コメントの機会をとらえて、自分の意見を届ける
- 各分野の委員会や審議会などの公募枠に応募して意見を言う
- 選挙に立候補する人を応援する
- 選挙に立候補する

多様な人々が暮らす私たちの社会。誰もがより自分らしく幸せに暮らすためには、多様な声が必要です。私たち生活者 1 人 1 人が意思決定の場への関心をもち、機会をとらえて、積極的に参画していくことが必要不可欠です。

あなたの声も、届けてみませんか。

8/29（火）

魅力ある女性リーダー養成講座

Part.1　リーダーシップ講座＆ロールモデルによる パネルディスカッションと交流会

会場：“りいぶる”会議室Ａ

講師＆コーディネーター：本庄 麻美子さん　（和歌山大学経済学部准教授／キャリアコンサルタント）

パネリスト：新野（にいの）　佳世子 さん（社会福祉法人寿敬会 養護老人ホーム大日山荘 部長）
川瀬　有美　さん（株式会社タカショー ホームユース開発品質部　マネージャー）
尾﨑　美樹　さん（株式会社アワーズ〔アドベンチャーワールド〕飼育部 動物病院課　セクションマネージャー）

本庄麻美子さん

新野さん

川瀬さん

尾﨑さん

リーダーシップ講座では、日本が人生100年時代を迎える今、性別、年齢問わず多様な人による柔軟な働き方が必要であることを説明され、具体的には、①男女ともに働く②短時間で働く③違う条件の人を揃える、の３点をあげられました。そして、現代のリーダーシップの条件にふさわしい「サーバント・リーダー」について説明され、他者に対する思いやりや奉仕の気持ちが先にくることが大事であり、男性より女性の方がこれからのリーダーシップに必要な「傾聴」、「共感」、「癒し」、「気づき」等の資質を持っていると話されました。

また、モチベーションの根源と目的について説明され、働くこととモチベーションの関係において、労働の見返りである報酬には「物質的な報酬」（給料、ボーナス等）と「非物質的な報酬」（褒められる、感謝される、満足感等）があるが、モチベーションが持続されるのは「非物質的な報酬」によると説かれました。

最後に、リーダーシップとは他者のモチベーション・能力を引き出すことであり、リーダーとは変化や影響を与える人である。女性も充分に活躍できると話されました。

パネルディスカッションに登場した３人のパネリストは、仕事、家事・育児、介護を両立しながら役職につくまでの話をされた後、参加者からの質問にも答え、「リーダーになって気づいたことは？」という問いに、「目に見えない仕事が多い」「上司と部下の板挟みになる」などの苦労がある中でも「部下の成功がうれしく共有できる」「上司に意見が通りやすくなった」「運営、人事など仕事の視野が広がった」など、良かった点をあげられました。３人に共通したリーダー像は「仕事、人が好きである」「周りがリーダーと慕ってくれる存在」でした。

各班のディスカッションには、パネリストも参加され、後輩との接し方などの質問に的確なアドバイスをいただきました。

【参加者の声】「リーダーシップだけでなく、働く上でのモチベーションなど学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができました」「実際にリーダーとして活躍されている方のお話を聞くことができ、明日から職場で傾聴、共感を意識して行っていきたいと思います」

ぬいぐるみ ★ お泊り会

ぬいぐるみたちがお泊り会をしたよ。図書室も探検したよ。

令和５年７月22日（土）：図書室案内ツアーと寝かしつけ　23日（日）お迎え
場所：“りいぶる”図書・交流スペース、一時保育ルーム

この事業は、自分の分身である“ぬいぐるみ”が、図書室を探検したり、貸出カードを作成したりすることで、図書室を身近に感じ、本や読書への興味を引き出すきっかけとなることを目的とした事業です。

7/8（土）　子供たちを 性暴力 から守りたい　～大人ができること～

講師：国安澄江さん　（ウィメンズセンター大阪　スタッフ）
令和5年7月8日（土）　会場：“りぃぶる”会議室Ａ

はじめに講師は、誰でも生まれながらに「性的人権」をもって生きているとし、子供に「性」について伝えるためには、大人側の価値観が問われると指摘されました。

また、被害者にも落ち度があったのでは？、子供への性暴力はめったに起きていない、加害者は知らない人が多いなど性暴力についての世間一般の誤った認識について解説され、子供の視点に立った防止策が必要であることや、子供からのサインの捉え方と適切な対応についても具体的に説明されました。

子供の場合は、真の性的同意があり得ないため、どのような状況でもすべてが「性暴力」となる。子供には、『「困った」「イヤだ」と感じた時は「いや」と言っていいし、逃げてもいい』、『自分がしたくないことや安心できないことは、しなくていい』ことを伝えることが大事だと語られました。

【参加者の声】　「被害者の気持ち、目線になって対応することが大切だとより感じました」「子供の視点に立った感情面など、大変よく分かるお話でした」「子供の話を聞くときの留意点を教えて頂いて良かったです」

9/2（土）　～この表現、モヤモヤするのはなぜ？～ ジェンダーの視点からのメディア・リテラシー

講師：波多江みゆきさん（NPO 法人あなたらしくをサポート〔らしーく〕副代表理事）
令和5年9月2日（土）　会場：御坊市中央公民館　研修室３

自分らしく生きられる社会のために、何げなく見聞きしている言葉や表現についてグループワークをしながら皆で考えました。

例えば、私たちが持つ男女に関するイメージにしても、固定観念（思い込み）や、偏見（決めつけ）により無意識に植えつけられている（すり込み）ことに気づき、情報をそのまま受け取るのではなく、それが正しいかどうかを自分で考え、確認し、解釈する力（メディア・リテラシー）を養うことが必要であると説明されました。

また、日頃見かけるイラストについても、ジェンダーに縛られないより良い表現や性的メッセージを含まず男女を対等な関係として表現する視点を学びました。

「時代はどんどん変化しています。知ること、気付くことが大切です。言葉の使い方ひとつで相手を傷つけていることを忘れず、自分も相手も大切にしましょう」と結ばれました。

【参加者の声】　「『気づき知識は力になる』『力を持つと人に優しくなれる』ことがわかりました」「女性管理職を増やすためには、女性のチャンスを増やすことが大事、ということを覚えておきます」「自分自身の考えが固定されていることがあらためてわかった」

“りぃぶる”図書室

☆スタッフおススメ図書☆

あきらめません！

著　者：垣谷美雨
出版社：講談社

結婚以来共働き、ワンオペ育児をこなし、マンションのローンも返済完了。定年退職した郁子は、夫の田舎へ移住する。しかしそこは、封建的で女性が窮屈さを感じる町だった。

そんな時、郁子はひょんなことから市議会議員に立候補することになる。その選挙では落選するものの、住民の生活向上のために市民活動に励んだ結果、次の選挙で見事当選。市議会議員を経て、郁子は日本で最初のクオータ制導入を公約に初の女性市長をめざす！

だがし屋のおっちゃんは おばちゃんなのか？

著　者：多屋光孫
出版社：汐文社

“ぼく”と“まきちゃん”がいつも行く“だがし屋のおっちゃん”は、角刈りヘアーで筋肉ムキムキ。ガニ股歩きで、大口を開けて「ガハハ」と笑う。

ある日、“おっちゃん”が「はるこ」と呼ばれるのを聞いた二人は、「おっちゃんはもしかしたら女なのでは？」という疑問をもちあれこれ考える。

二人の質問に答えた“おっちゃん”の話とは…。ジェンダーや多様な性を考えるきっかけとなる１冊。

さらば、男性政治

著　者：三浦まり
出版社：岩波書店

著者は、日本の政治は男性だけで営まれる男性政治であると指摘し、女性議員が少ない現状や背景、原因を様々なデータや資料を根拠にしながら紐解く。また、女性議員誕生を阻む壁と対策をあげ、クォータ（割り当て）の有効性もわかりやすく解説している。

今後、日本が歩むべき“ジェンダー平等で多様性のある政治”への道をさし示す、読み応えのある新書。

自分を大切にするために…。

“りぃぶる”相談室　相談受付専用ダイヤル

073(435)5246

相談は無料。専門の相談員がお話をうかがいます。予約は、希望者本人に限ります。秘密は厳守します。ナンバーディスプレイは使用しておりません。

総合相談

家庭や職場のこと、生き方への不安など、様々な悩みや相談に男女共同参画相談員が応じます。

電話相談

㊋㊌㊍㊎㊏◯　9：00～20：30（受付は20：00まで）

◯◯◯◯◯㊐　9：00～17：00（受付は16：30まで）

面接相談【要予約・女性のみ】

㊋㊌㊍㊎㊏◯　9：00～17：30（受付は16：30まで）

◯◯◯◯◯㊐　9：00～16：00（受付は15：00まで）

女性のためのカウンセリング

女性が抱えるこころの問題に女性カウンセラーが応じます。

面接相談または電話相談

◯◯◯㊎㊏◯　13：00～15：40

※毎月第２金曜日・第４土曜日

予約制（匿名可）、各日３人まで。
相談時間は１人40分。

女性のための法律相談

夫婦、財産相続、金銭問題等、女性にとって身近な法律上の問題に女性弁護士が応じます。

面接相談のみ

毎月３回（不定期）13：00～14：50

※日程は“りぃぶる”までご確認ください。

予約制、各日３人まで。
相談時間は１人30分。

男性のための電話相談

職場のストレスをはじめ、夫婦・家族・人間関係などの様々な問題に男性相談員が応じます。

◯㊌◯◯◯◯　16：00～20：00（受付は19：30まで）

※毎月第２水曜日／予約優先（匿名可）
１日５人、相談時間は１人40分。

LGBTQ 相談

レズビアン（L）・ゲイ（G）・バイセクシャル（B）・トランスジェンダー（T）など、様々な性的指向や性自認の方のための専門相談窓口を開設しています。本人からの相談だけでなく、ご家族や友人、職場の関係者など周りの方からの相談もお受けします。秘密厳守、匿名での相談も可能ですので、安心してご相談ください。

面接相談または電話相談　◯◯◯◯㊏◯　**14：00～18：00**

※毎月第２土曜日／予約優先（匿名可）／１日４人、相談時間は１人40分。
令和５年度の相談日（予定）：10/14，11/11，12/９，1/13，2/10，3/９

性暴力について相談したい…

性暴力救援センター和歌山 わかやま mine（マイン）（和歌山県立医科大学附属病院内）

◆相談受付専用ダイヤル　073－444－0099（オーエンキューキュー）

○電話相談　24時間365日（但し、22時～翌朝9時と年末年始はコールセンターでの対応となります）
○面接相談　9時～17時45分　※要予約、土日・休日・年末年始を除く
○緊急医療　24時間365日

こころとからだの回復のために、女性支援員が細やかな支援を行います。
ひとりで悩まずに相談してください。

☆表紙デザインについて☆

作者の浦谷真夕（まゆ）さんは、漫画を描くことが好きな子供時代を過ごすなか絵を独学で学び、(公財)和歌山県人権啓発センターの啓発資料制作、和歌山市男女共生推進センター『みらい』広報誌の４コマ漫画制作などに携わりました。現在は、生まれ育った和歌山を離れ、兵庫県で子育てをしつつ、趣味として楽しみながら絵を描いています。

表紙イラストは、２匹の鹿たちが、リンドウが咲く秋の山のなかをともに歩む姿です。

“りぃぶる”はフランス語で「自由な（libre）」という意味で、当センターの愛称です。

〒640-8319　和歌山市手平２丁目１－２
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛９Ｆ

TEL　073-435-5245　　FAX　073-435-5247

E-mail：libre@sirius.ocn.ne.jp

【開館時間】　火曜～土曜：午前９時～午後９時
日曜：午前９時～午後５時30分

【休館日】　月曜・祝日・年末年始（12/29～1/3）

★LINE アカウント★

LINE“りぃぶる”公式アカウントはこちら

♥フェイスブックも更新中♥

りぃぶる　「りぃぶる」で検索してね！

和歌山ビッグ愛の9階にあります！

◆発行◆　和歌山県男女共同参画センター“りぃぶる”
－企画・編集　特定非営利活動法人 和歌山ｅかんぱにい－